

2018 年度

**日本登山医学会認定国際山岳医・国際山岳看護師
および
日本登山医学会認定山岳医・山岳看護師
講習会**

**UIAA/ICAR/ISMM Diploma/Certificate/Completion
in Mountain Medicine**

募集要項

主催：一般社団法人日本登山医学会

認定：

JSMM(一般社団法人日本登山医学会)

UIAA Medcom(国際山岳連盟医療部会)

ICAR Medcom(国際山岳救助委員会医療部会)

ISMM(国際登山医学会)

後援：

公益社団法人 日本山岳協会

(独立行政法人)日本スポーツ振興センター 国立登山研修所



Certificate for Courses in Mountain Medicine

This is to certify that the courses in Mountain Medicine organised by:

Japanese Society of Mountain Medicine

are in accordance with the minimum requirements of the Medical Commissions of Union Internationale Des Associations D'alpinisme (UIAA) and International Commission for Alpine Rescue (ICAR), and the International Society for Mountain Medicine (ISMM). The organisation is entitled to use the UIAA, ICAR and ISMM logos for their courses for two years from May 2010, and award the title *UIAA/ICAR/ISMM Diploma/Certificate in Mountain Medicine* to successful candidates as set out in the Diploma in Mountain Medicine regulations agreed in Aviemore, Scotland in October 2007.

Signed:

Dr Buddha Basnyat M.D.
President
UIAA Medcom

Dr Fidel Elsensohn M.D.
President
ICAR Medcom

Dr Marco Maggiorini MD
President
ISMM

国際山岳医制度Diploma in Mountain MedicineはUIAA Medcom（国際山岳連盟医療部会）により1997年に制定された国際山岳医制度です。現在では、UIAA/ISMM（国際登山医学会）/ICAR（国際山岳救助委員会）が認定する国際的なDiplomaに発展しています。目的は山岳医学の臨床および研究を、あらゆる面において実践出来る医師を養成することです。現在オーストリア、ドイツ、英国、フランス、イタリア、スイス、スペインの登山医学会がその運営を行っています。上記certificateにあるように、この日本登山医学会の組織するプログラムは上記3組織が認定する国際山岳医条件を満たしていると判断されました。必要な講習過程を修了し、すべての試験に合格すれば、上記各国のそれと同等の国際資格（UIAA/ISMM/ICAR Diploma in Mountain Medicine）が取得出来る制度が日本にも2010年度に発足したことになります（2010年5月記）。

I 目的

山岳医学の臨床および研究をあらゆる面において実践出来る医療従事者を養成することを目的とします。山岳地帯で発生しうる疾病および外傷の理論と実践について学びます。そのためには山岳環境そのもの、およびそこで起こる生理学的変化を理解する必要があります。また山岳地帯へ至るまでの旅行医学の知識も要求されます。さらに山岳環境でのサバイバルやレスキューの技術も体得しなければなりません。

II 理念

日本登山医学会認定山岳医・日本登山医学会認定山岳看護師・日本登山医学会認定山岳医講習修了者および日本登山医学会認定国際山岳医・日本登山医学会認定国際山岳看護師・日本登山医学会認定国際山岳医講習修了者の理念は以下の通りです。

1. 日本登山医学会認定山岳医（以下国内山岳医）・日本登山医学会認定山岳看護師（以下国内山岳看護師）・日本登山医学会認定山岳医講習修了者（以下国内山岳医修了者）：高所医学、山岳医学、旅行医学等に関する専門知識を有し、山岳地帯で発生する疾病および外傷の臨床を実践できる医師・看護師・山岳救助者。具体的には日本登山医学会が規定する山岳医プログラムの受講および実技試験の合格が必要である（冬期登山技術や凍傷、低体温症、雪崩の実習は必修とするが、実技の可否判定は行なわない）。

2. 日本登山医学会認定国際山岳医（以下国際山岳医）・日本登山医学会認定国際山岳看護師（以下国際山岳看護師）・日本登山医学会認定国際山岳医講習修了者（以下国際山岳医修了者）：高所医学、山岳医学、旅行医学等に関する高度な医学知識のみならず、山岳環境でのサバイバルやレスキューに関する十分な技術、すなわち山岳救助隊員として、または山岳救助関係者と共に活動ができるレベルの登山技術が求められる。具体的には、UIAA/ISMM/IKAR の認定条件を満たす日本登山医学会認定の山岳医プログラム全ての受講および実技試験の合格が必要である。

III 募集対象

日本登山医学会会員である医師、看護師、その他の日本登山医学会員がエントリーできます。2014年度からは日本登山医学会会員である看護師に、2017年度からはその他の日本登山医学会員に募集対象を拡大しました。受講するコースは医師と同一のものです。看護師、医師や看護師以外の日本登山医学会員は学術的に十分な準備を済ませて講習を受講する必要があります。

登山経験の乏しい参加希望者は、事前に各種山岳団体や山岳ガイドなどによる登山技術講習や救助技術講習を受けておくことを推奨します。国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了者に合格するためには、最終ページに付記した技術基準を余裕をもって実践できることが必要ですし、国内山岳医・国内山岳看護師・国内山岳医修了者に合格するためには、技術基準の内容を十分に理解し経験していることが必要です。国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了希望者はこれらの基礎的山岳技術を備えていないと、夏山検定や冬山検定などの登山救助技術の実技検定に合格することは困難です。また、山岳地帯で余裕を持って行動できる体力も必要です。

IV 2018年度以降の改訂点

1. 各クラスターの構成を大幅に再編成し、座学と実技を分けるようにしました。
(付記：新旧カリキュラム対比表を参照)
2. 登山技術実技講習冬期はその内容を冬山演習に統合しました。

V コース概要

一般教程

1. 夏山座学 基礎理論学習 2018年4月7～8日
2. 夏山演習 山岳技術基礎 2018年6月23～24日
3. 夏山検定 登山技術実習・検定（夏山）、沢登りなど 2018年7月14～16日
4. 実践山岳外傷学 2018年9月8～9日
5. 冬山座学 基礎理論学習・ヘリコプターレスキュー 2018年11月10～11日
6. 冬山演習 救助技術等演習 2019年1月26～27日
7. 冬山検定 登山技術検定（冬山）2019年2月16～17日
(国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了希望者のみ)
8. 一般座学 基礎理論学習 2019年3月16～17日
9. 学術集会 医学研究の実行
5年間の受講期間の間に、最低でも1回は日本登山医学会学術集会に出席することを必須とします

- ・ 国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了者の一般教程は、全部で129.5時間になります。
- ・ 上記の教程から夏山検定（沢登り）、冬山検定、冬山座学（高所・寒冷など実践的山岳遭難事例検討、遠征登山）を除く教程すべての終了試験に合格した講習生には、「国内山岳医・国内看護師認定証、国内山岳医修了証」が授与されます。
- ・ 「国内山岳医・国内山岳看護師・国内山岳医修了者」合格のための夏山登山技術の実技合格基準は、国内の山岳事情に沿った基準です。
- ・ 「国内山岳医・国内山岳看護師・国内山岳医修了者」取得者が「国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了者」資格を希望する際は、夏山検定を再受講し、国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了者レベルの夏山登山技術および上記の免除科目を受講、合格する必要があります。

VI <2018年度のプログラム（予定）>

国内山岳医・国内山岳看護師・国内山岳医修了者のみを希望される受講生は黒字で記載された科目のみ履修が必要で、赤字で記載された科目を履修する必要はありませんが、将来国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了者も希望する予定があれば履修可能です。各クラスタの募集要項はメーリングリストで配布するか web page 上に掲載いたします。なお、プログラムは講師の都合などのため一部変更される場合もあります。予めご了承ください。

1. 夏山座学 基礎理論学習（東京・13時間） 2018.4.7-8

高所1：高山病総論

高所2：低酸素環境体験

高所3：高所における生理学

運動生理学

栄養、水分バランスと疲労

スポーツと薬物使用を含む倫理学

法律問題・山岳保険

熱中症・日焼け

水難

携帯救急医療品

山のリスクマネージメント

ストレス対策

2. **夏山演習** 山岳技術基礎（国立登山研修所・15時間） 2018.6.23-24

救助技術総論

登山個人装備

セルフレスキュー・衝撃：理論

セルフレスキュー・衝撃：演習

高所4：高度順応戦略：演習

即興の救助技術実践：演習

組織救助技術実践：演習

3. **夏山検定**（国立登山研修所・23時間） 2018.7.14-16

山中での情報技術：理論

ナビゲーション技術：理論

山中での情報技術：演習

ナビゲーション技術：演習

生存技術・疲労：演習

登山技術実技・検定夏期

沢登り

4. **実践山岳外傷学**（つくば市・15時間） 2018.9.8-9

本講習受講前に JPTEC を受講しておくことが望ましいが、地元で受講できない方のために1日目に JPTEC を開催します。

JPTEC

外傷総論

整形外科疾患論

外傷演習

疼痛対策・実践麻酔学

5. **冬山座学**（大阪・12時間） 2018.11.10-11

低体温症1：生理学

低体温症2：症状・治療

低体温症3：事例検討

ヘリコプターレスキュー

凍傷：理論

雪崩：理論

高所・寒冷など実践的山岳遭難事例検討

遠征登山：ヒマラヤ登山トレッキング事情

6. 冬山演習（国立登山研修所・12時間）2019.1.26-27

クレバスレスキュー

低体温症：ワークショップ

凍傷：ワークショップ

雪崩：ワークショップ

救助技術実践：演習・検定

組織救助技術実践：演習

雪崩：ビーコン演習・検定

7. 冬山検定（八ヶ岳・14時間）2019.2.16-17

登山技術実技・検定冬期

アイスクライミング

8. 一般座学（東京・13.5時間）2019.3.16-17

感染制御と水の安全、寄生虫

気象

旅行医学・国際感染症

登山者検診ネットワーク

山中の医学：小児

山中の医学：女性、ハンディキャップ

山中の医学：高齢者、循環器

山の有害動物

山の有害植物

有害ガス・電撃

眼、顎顔面のトラブル

ボルダリング外傷

9. 学術集会

医学研究の実行

5年間の受講期間の間に、最低でも1回は日本登山医学会学術集会に出席することを必須とします

VII 本コース受講前に満たしておくべき項目

・受講者は日本登山医学会会員に限ります。本コース受講前に入会しておいてください。

<http://www.jsmmed.org/pg43.html>

・受講者は本コース受講前に山岳保険（冬山登山、岩登り、アイスクライミング、山スキーを行っている最中の事故にも適用出来るもの）に加入していなければならない。なお年度が替われば再加入する必要があることをお忘れなく。

・＜本コース受講中に満たしておくべき研修や講義＞

- ① 1次救命処置（Basic Life Support; BLS）
- ② 2次救命処置（Advanced Cardiovascular Life Support ; ACLS）
- ③ Immediate Cardiac Life Support（ICLS）
- ④ JPTEC

山岳医、山岳看護師、山岳医修了者資格申請時には、上記①+②+④、または③*+④の過去5年以内に取得もしくは更新したプロバイダー資格、またはインストラクター資格の証明書を提示することが求められます。④は実践山岳外傷学受講前に受講しておくことが望ましい。*③は取得時期を問わない。

VIII 認定試験

各クラス終了後認定試験を行います（登山技術その他の実習の試験には、講習の最中や終了前の実技試験も含まれます）。クラス終了後のペーパーテストには、多枝選択式と記述式の設問を行います。受講者は試験結果に対する異議申し立てをクラス責任者を通して試験委員長に行うことができます。

IX 参考図書

「登山の医学ハンドブック第2版」、「High Altitude Medicine & Physiology Fifth edition」、「全図解レスキューテクニック 初級編／堤 信夫」、「増補改訂新版 イラスト・クライミング／阿部亮樹」、「山岳遭難救助技術マニュアル3【山岳救助組織従事者編】」、「ガイドマニュアル 山岳ガイド編」、「ヤマケイテクニカルシリーズ（読図、気象、登山医学、レスキュー、クライミング、沢、

BC、etc) 」

公式情報サイト：UIAA Official Standard

<http://www.theuiaa.org/mountain-medicine/medical-advice/>

X 費用

(1) 受講料

受講生は各クラス受講前に定められた受講料を支払うこととする。

(2) 宿泊費

宿泊費や食費は原則受講料に含まれません。各自の負担で宿泊先や食事を予約して下さい（こちらで宿泊先を紹介出来るときは、事前に連絡致しますが宿泊費は各自負担です）。同様に交通費も各自負担です。

(3) 受講登録料

受講登録料として応募申請時に10,000円を日本登山医学会認定山岳医委員会（日本登山医学会事務局内）に支払っていただきます。

(4) キャンセリングポリシー

受講登録料はお返しできません。各コースの受講料も原則的にはお返ししません。但し、もっぱら運営者側の責任によりクラスが受講出来なくなった場合は、そのクラスの受講料はお返しします。

XI 受講者数制限

山岳実践が中心となる夏山演習、夏山検定、冬山演習および冬山検定では、講習の安全と適切な合否判定に配慮したガイド・レシオを保つ必要があります。登山経験が乏しいなど参加に危険が伴うと判断される方の受講を制限する場合があります。

XII 受講修了

本コースは5年以内に修了することが義務づけられます。期限を過ぎた場合、最後にクラス合格した年度から数えて5年前の年度以前のクラス合格は無効と

なります。受講料の返還はありません。国内山岳医・国内山岳看護師資格取得後に国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了者資格の取得を希望した場合、国内山岳医・国内山岳看護師・国際山岳医修了者受講申請時より5年以内に必要単位を取得すれば、国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医修了者資格を取得することが出来ます。認定に関する質問は dimmm01@jssmmed.org へお願いいたします。

XIII 各講習の登山装備

講習参加に必要な全ての登山装備は、各人で予め用意して講習に臨んで下さい。

XIV 資格更新

資格更新については現在協議中であり、内容が確定し次第通知します。

付記：受講に必要な最低限の登山技術（合格基準ではありません）

夏期

- 1) ロープ、スリング、カラビナ、ハーネス、ヘルメット等の知識
- 2) ハーネスの付け方、スリングを用いた簡易ハーネスの作り方、ハーネスへのロープの結び方
- 3) 支点（アンカー）の知識、作り方
- 4) 自己確保（セルフビレー）
- 5) トップロープのビレー
- 6) 下降器を用いた懸垂下降
- 7) フリクションノット（プルージック、マッシュャー等）による登高
- 8) ムンター（ハーフクロープ）ヒッチ、ダブルエイトノット、クローブヒッチ（インクノット、マスト結び）、ダブルフィッシャーマンズノット
- 9) 1/3 引き上げシステム等の理解
- 10) ピッチグレードⅢ級程度の岩場のフォロワーとしての登攀

冬期

- 1) アイゼンを用いた歩行技術
- 2) 雪や氷を用いた支点の知識、作り方

- 3) 1/3 引き上げシステム等を用いたクレバスレスキューの理解
- 4) ビーコンとプローブを用いた雪崩埋没者の捜索及び救助
- 5) 簡単なアイスクライミングの技術

補足：原文の「**grade WI 2**」とは **Consistent 60° ice with possible bulges; good protection** と定義されます。これは山岳地に限定されるものではありませんが、ゲレンデ（八ヶ岳ジョウゴ沢等）でのアイスクライミングの経験が求められます。

XV 申込み

一般社団法人日本登山医学会 web page から、認定山岳医制度登録フォームにて
お願いします。

http://www.jsmmed.org/dimmjpn_entry.html

お問い合わせは下記にお願い致します。

認定山岳医委員会 dimm01@jsmmed.org

募集要項改定歴

1) 2012 年度以降の改訂点

2010 年 5 月にスタートした日本のプログラムは、上記の certificate にあるように、2007 年 10 月スコットランドの Aviemore での UIAA/ISMM/ICAR 合同会議において定められた regulation に則り作成されていました。さて、2010 年 8 月ペルーの Arequipa で行われた同合同会議では、DiMM 履修内容に関する新たな regulation が採択されました。よって日本でも 2012 年度からは新 regulation に基づきかつこの 2 年間の日本での経験を踏まえて、以下のようにプログラムを改訂しています。

1. 「実践山岳外傷学」クラスタを新設する（国際・国内共通）。
2. 「高所」「低体温症」「凍傷」に関する講義・実習時間を増やす（国際・国内共通）。
3. 「遠征・野外活動医学コース（40 時間）」を「高所登山トレッキング医学・山岳救助実践クラスタ（12 時間）」として改組し、国際山岳医・国際山岳看護師希望者の必須クラスタとする。
4. 実技試験については、国際山岳医と国内山岳医とで異なる合格基準を設ける。

2012 年度からエントリーされる方はこの新プログラムを履修していただいています。2011 年度以前にエントリーされた方は、旧募集要項に示されたすべての課程を修了すれば当該資格取得が可能です（もちろん新しく加わったコースやクラスタを受講する権利もあります）。

5. 2012 年度より日本登山医学会主催の DiMM 札幌クラスタを日本登山医学会会員が聴講することを認めました。エントリーする資格のある会員で、国際山岳医制度・国際山岳看護師制度・国際山岳救医修了者制度または国内山岳医制度・国内山岳看護師制度・国内山岳医修了者制度にエントリーされていない方が受講された場合、受講後 1 ヶ月以内にエントリーし札幌クラスタ所定の事後課題に合格された場合に限り、2017 年度札幌クラスタ受講を有効単位とすることができます。

2) 2015 年度以降の改訂点

2014 年イタリアの Borzano で開催された ISMM 会議で DiMM 履修内容に関する新たな regulation が採択されました。よって日本でも 2016 年度からは新 regulation に基づき、以下のようにプログラムを改訂しています。

1. 「感染制御と水の安全」、「医学研究の実行」「山中での情報伝達技術」、「スポーツと薬物使用を含む倫理学」の理論、実習、ワークショップが新たに加われました。
2. 「高所と高所障害」、「実践外傷学」、「野外での麻酔」、「以前からかかっている疾患の影響」、「旅行医学」、「夏期および冬期の登山技術」、「即興の救助技術導入編」、「即興の救助技術の実演実習」、「組織救助」に関する講義・実習時間を増やす（「冬期の登山技術以外は国際・国内共通」）

2016 年度以降にエントリーされた方はこの新プログラムを履修していただいています。2015 年度以前にエントリーされた方は、旧募集要項に示されたすべての課程を修了すれば当該資格取得が可能です（もちろん新しく加わったコースやクラスタを受講する権利もあります）。

3) 2017 年度以降の改訂点

1. 登山技術実技講習冬期新設しました。冬期登山技術経験が不足している国際山岳医・国際山岳看護師・国際山岳医講習修了希望者は当講習を受講することをお勧めいたします。しかし必修ではないので、冬期登山技術に自信のある方は必ずしも受講する必要はありませんし、当講習を受講してもハヶ岳クラスタ合否には関係はありません。
2. すべての講座を日本登山医学会会員全員が受講できることにします。ただし事後課題は認定山岳医、認定山岳看護師、認定山岳医修了者にエントリーしている者のみが解答することができます。エントリーなしに受講することも可能ですが、エントリーされていない方が受講された場合、受講後 1 ヶ月以内にエントリーし当該クラスタ所定の事後課題に合格された場合に限り、2017 年度当該クラスタ受講を有効単位とすることができます。

一般社団法人日本登山医学会 認定山岳医委員会
〒101-0034 東京都千代田区神田東紺屋町 36
サンハイツ神田北村ビル 507 号室
e-mail: dimm01@jssmed.org

(20180313)

新旧クラスタ科目対応表

クラスタ	日本版シラバス	国際シラバス	時間数	旧クラスタ
夏山座学	高所1：高山病総論	Altitude and its illnesses	1	旧東京1
	高所2：低酸素環境体験	Altitude and its illnesses	2	旧東京1
	高所3：高所における生理学	Altitude and its illnesses	1	旧立山1
	運動生理学	Exercise physiology	1	旧東京1
	栄養、水分バランスと疲労	Nutrition, fluid balance and exhaustion	1	旧東京1
	スポーツと薬物使用を含む倫理学	Ethics including sports and drug use:discussion	1	旧東京2
	法律問題・山岳保険	Legal aspects	1	旧東京1
	熱中症・日焼け	Heat and solar radiation	1	旧東京1
	水難	Submersion and immersion in water	1	旧東京1
	携帯救急医療品	Personal first aid kit and mountaineering equipment	1	旧東京1
	山のリスクマネジメント		1	旧東京1
	ストレス対策	Stress management	1	旧東京1
学術集会	医学研究の実行	Performing medical research	6	旧東京2
夏山演習	救助技術総論	Introduction to improvised rescue techniques	1	旧札幌
	セルフレスキュー・衝撃：理論	Introduction to improvised rescue techniques	1	旧立山1
	高所4：高度順応戦略：演習	Altitude and its illnesses	2	旧立山1
	登山個人装備		1	旧立山2
	セルフレスキュー・衝撃：ロープワーク演習	Practical demonstration of improvised rescue techniques	6	旧立山1
	即興の救助技術実践：演習	Practical demonstration of improvised rescue techniques	2	旧札幌
	組織救助技術実践：演習	Organised rescue	2	旧札幌
夏山検定	ナビゲーション技術：理論	Navigation and survival teqs in hostile weather in the mts	1	旧立山2
	山中の情報技術：理論	Information technology in the mountains	1	旧東京1
	ナビゲーション技術：演習	Navigation and survival teqs in hostile weather in the mts	3	旧立山2
	山中の情報技術：演習	Information technology in the mountains	1	旧東京1
	生存技術・疲労：演習	Mountaineering techniques in summer	4	旧立山2
	登山技術実技・検定夏期	Mountaineering techniques in summer	9	旧立山2
	沢登り	Mountaineering techniques in summer	4	旧立山2
外傷	JPTEC	Practical traumatology / Effects of pre-existing clinical conditions	8	旧外傷
	外傷総論	Practical traumatology	1	旧外傷
	整形外科疾患論	Practical traumatology	1.5	旧外傷
	外傷演習	Practical traumatology	2.5	旧外傷
	疼痛対策・実践麻酔学	Analgesia in the field	2	旧外傷
冬山座学	低体温症1：生理学	Hypothermia	1	旧東京1
	低体温症2：症状・治療	Hypothermia	1	旧札幌
	低体温症3：事例検討	Hypothermia	1	
	ヘリコプターレスキュー	Organised rescue	1	旧札幌
	凍傷：理論	Frostbite	1	旧東京1

	雪崩：理論	Avalanche risk assessment, companion search, and medical management of victims	1	旧東京2
	高所・寒冷など実践的山岳遭難事例検討	Altitude and its illnesses	4	旧東京2
	遠征登山：ヒマラヤ登山トレッキング事情	International mountaineering organisations	2	旧東京2
冬山演習	クレバスレスキュー	Navigation and survival teqqs in hostile weather in the mts	2	旧札幌
	低体温症：ワークショップ	Hypothermia	1	旧八ヶ岳
	凍傷：ワークショップ	Frostbite	1	旧八ヶ岳
	雪崩：ワークショップ	Avalanche risk assessment, companion search, and medical management of victims	2	旧八ヶ岳
	救助技術実践：演習・検定	Navigation and survival teqqs in hostile weather in the mts	2	旧札幌
	組織救助技術実践：演習	Organised rescue	2	旧札幌
	雪崩：ビーコン演習・検定	Avalanche risk assessment, companion search, and medical management of victims	2	旧札幌
冬山検定	登山技術実技・検定冬期	Mountaineering techniques in winter	9	旧八ヶ岳
	アイスクライミング	Mountaineering techniques in winter	5	旧八ヶ岳
一般座学	感染制御と水の安全、寄生虫	Infection control and water safety	1	旧東京2
	気象	Weather	1	旧東京1
	旅行医学・国際感染症	Travel Medicine	1	旧東京1・2
	登山者検診ネットワーク		1	旧東京1
	山中の医学：小児	Children and mountains	1	旧東京1
	山中の医学：女性、ハンディキャップ		1	旧立山1
	山中の医学：高齢者、循環器		2	旧立山1
	山の有害動物		1.5	旧立山1
	山の有害植物		1	旧立山1
	有害ガス・電撃		1	旧立山1
	眼、顎顔面のトラブル		1	旧立山1
	ボルダリング外傷		1	

旧新クラスタ科目対応表

旧クラスタ	日本版シラバス	国際シラバス	時間数	クラスタ
旧東京1	登山者検診ネットワーク		1	一般座学
旧東京1	高所1：高山病総論	Altitude and its illnesses	1	夏山座学
旧東京1	高所2：低酸素環境体験	Altitude and its illnesses	2	夏山座学
旧東京1	運動生理学	Exercise physiology	1	夏山座学
旧東京1	栄養、水分バランスと疲労	Nutrition, fluid balance and exhaustion	1	夏山座学
旧東京1	法律問題・山岳保険	Legal aspects	1	夏山座学
旧東京1	熱中症・日焼け	Heat and solar radiation	1	夏山座学
旧東京1	水難	Submersion and immersion in water	1	夏山座学
旧東京1	山のリスクマネージメント		1	夏山座学
旧東京1	ストレス対策	Stress management	1	夏山座学
旧東京1	山中の情報技術：理論	Information technology in the mountains	1	夏山検定
旧東京1	山中の情報技術：演習	Information technology in the mountains	1	夏山検定
旧東京1	凍傷：理論	Frostbite	1	冬山座学
旧東京1	気象	Weather	1	一般座学
旧東京1	山中の医学：小児	Children and mountains	1	一般座学
旧東京1	携帯救急医療品	Personal first aid kit and mountaineering equipment	1	夏山座学
旧東京1	低体温症1：生理学	Hypothermia	1	冬山座学
旧東京2	スポーツと薬物使用を含む倫理学	Ethics including sports and drug use:discussion	1	夏山座学
旧東京2	医学研究の実行	Performing medical research	6	学術集会
旧東京2	雪崩：理論	Avalanche risk assessment, companion search, and medical management of victims	1	冬山座学
旧東京2	高所・寒冷など実践的の山岳遭難事例検討	Altitude and its illnesses	4	冬山座学
旧東京2	遠征登山：ヒマラヤ登山トレッキング事情	International mountaineering organisations	2	冬山座学
旧東京2	感染制御と水の安全、寄生虫	Infection control and water safety	1	一般座学
旧東京1・2	旅行医学・国際感染症	Travel Medicine	1	一般座学
旧外傷	JPTec	Practical traumatology / Effects of pre-existing clinical conditions	8	外傷
旧外傷	外傷総論	Practical traumatology	1	外傷
旧外傷	整形外科疾患論	Practical traumatology	1.5	外傷
旧外傷	外傷演習	Practical traumatology	2.5	外傷
旧外傷	疼痛対策・実践麻酔学	Analgesia in the field	2	外傷
旧立山1	山中の医学：女性、ハンディキャップ		1	一般座学
旧立山1	高所3：高所における生理学	Altitude and its illnesses	1	夏山座学
旧立山1	セルフレスキュー・衝撃：理論	Introduction to improvised rescue techniques	1	夏山演習
旧立山1	高所4：高度順応戦略：演習	Altitude and its illnesses	2	夏山演習
旧立山1	セルフレスキュー・衝撃：ロープワーク演習	Practical demonstration of improvised rescue techniques	6	夏山演習
旧立山1	山中の医学：高齢者、循環器		2	一般座学
旧立山1	山の有害動物		1.5	一般座学
旧立山1	山の有害植物		1	一般座学

旧立山1	有害ガス・電撃		1	一般座学
旧立山1	眼、顎顔面のトラブル		1	一般座学
旧立山2	登山個人装備		1	夏山演習
旧立山2	ナビゲーション技術：理論	Navigation and survival teqs in hostile weather in the mts	1	夏山検定
旧立山2	ナビゲーション技術：演習	Navigation and survival teqs in hostile weather in the mts	3	夏山検定
旧立山2	生存技術・疲労：演習	Mountaineering techniques in summer	4	夏山検定
旧立山2	登山技術実技・検定夏期	Mountaineering techniques in summer	9	夏山検定
旧立山2	沢登り	Mountaineering techniques in summer	4	夏山検定
旧八ヶ岳	低体温症：ワークショップ	Hypothermia	1	冬山演習
旧八ヶ岳	凍傷：ワークショップ	Frostbite	1	冬山演習
旧八ヶ岳	雪崩：ワークショップ	Avalanche risk assessment, companion search, and medical management of victims	2	冬山演習
旧八ヶ岳	登山技術実技・検定冬期	Mountaineering techniques in winter	9	冬山検定
旧八ヶ岳	アイスクライミング	Mountaineering techniques in winter	5	冬山検定
旧札幌	低体温症2：症状・治療	Hypothermia	1	冬山座学
旧札幌	救助技術総論	Introduction to improvised rescue techniques	1	夏山演習
旧札幌	即興の救助技術実践：演習	Practical demonstration of improvised rescue techniques	2	夏山演習
旧札幌	組織救助技術実践：演習	Organised rescue	2	夏山演習
旧札幌	ヘリコプターレスキュー	Organised rescue	1	冬山座学
旧札幌	クレバスレスキュー	Navigation and survival teqs in hostile weather in the mts	2	冬山演習
旧札幌	救助技術実践：演習・検定	Navigation and survival teqs in hostile weather in the mts	2	冬山演習
旧札幌	組織救助技術実践：演習	Organised rescue	2	冬山演習
旧札幌	雪崩：ビーコン演習・検定	Avalanche risk assessment, companion search, and medical management of victims	2	冬山演習
	低体温症3：事例検討	Hypothermia	1	冬山座学
	ボルダリング外傷		1	一般座学